

# 国連WFPとは



国連 WFP は、飢餓をなくすことを使命とする国連唯一の食料支援機関。

紛争や自然災害時の緊急支援、栄養状態の改善、学校給食の提供などを活動の柱に、毎年およそ80カ国で、女性や子どもなど9,000万人に食料支援を行っています。



©WFP/Saikat Mojumder

## 国連WFPとSDGs

「持続可能な開発目標 (SDGs / Sustainable Development Goals)」は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17の国際社会の目標をまとめたもの。国連WFPは、目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、その実現を目指しています。



国連WFP 0120-496-819

ショクリョウ ハイキョウ

受付時間 9:00~18:00(年中無休)

WFP

検索

※ご寄付は寄付金控除の対象になります。

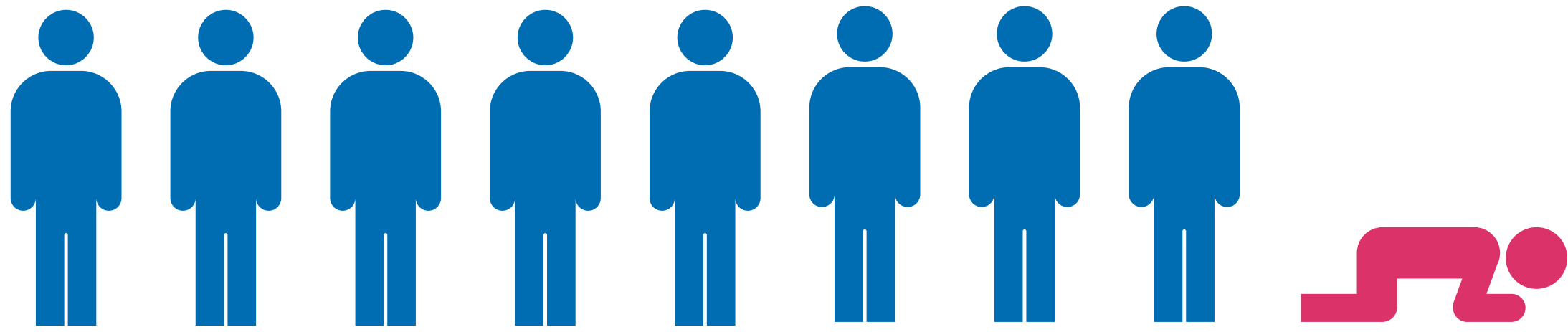




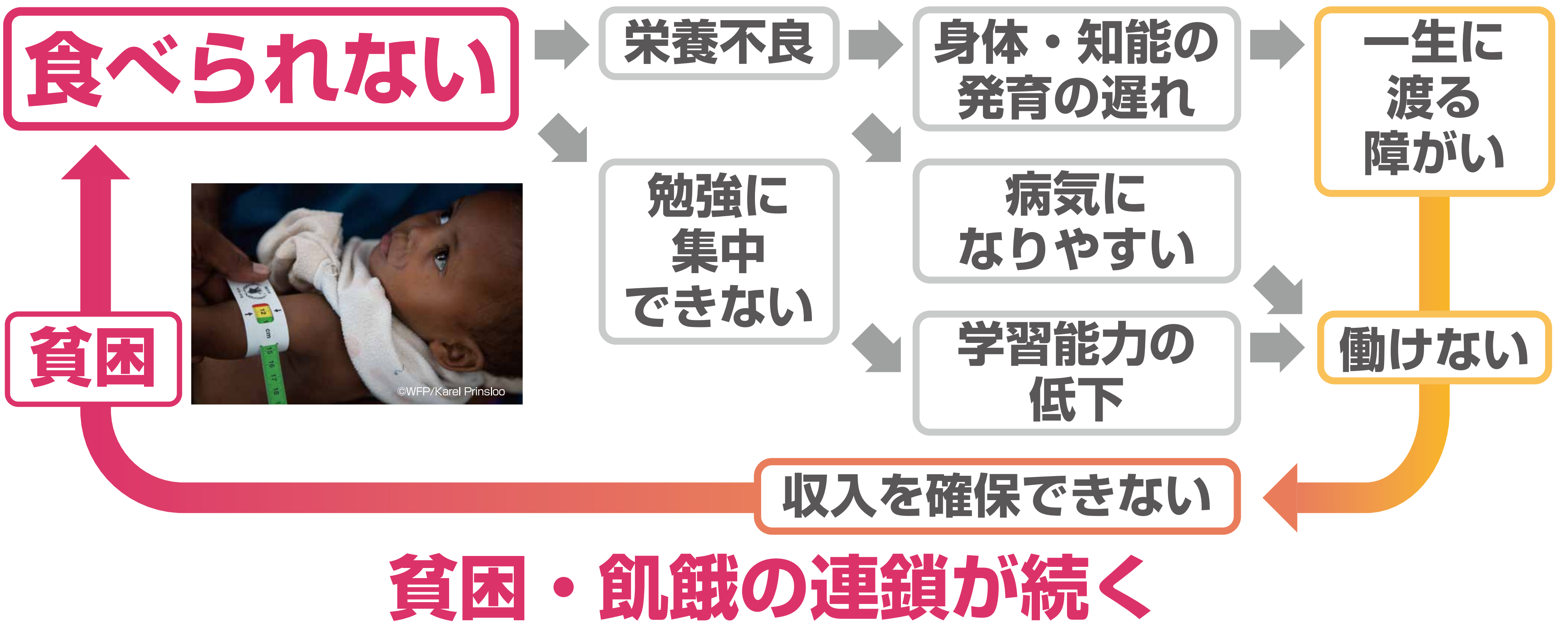
# 世界の飢餓

## 8億人が飢餓

世界の9人に1人が飢え



## 飢餓に陥ると...



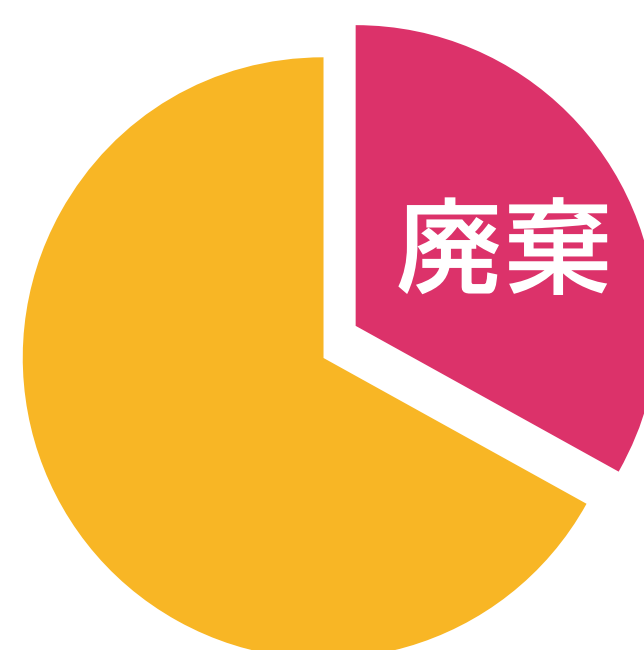
## 飢餓の背景

### 飢餓の原因

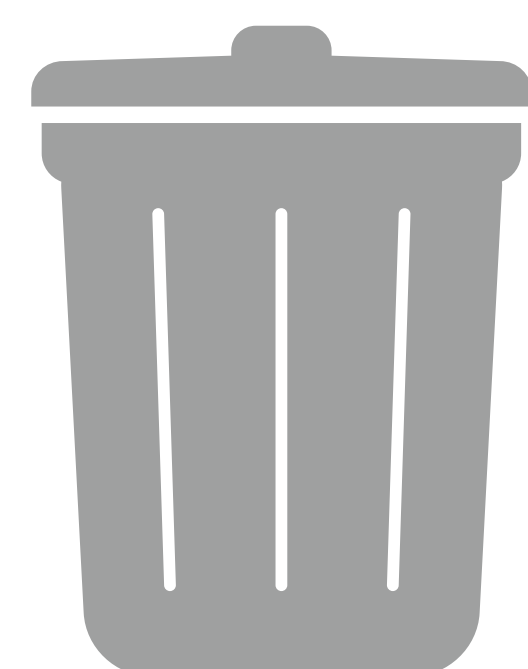


様々な原因が複雑に絡み合う

### 食の不均衡



世界の食料生産量の3分の1が廃棄。



1.7倍

日本の食品ロス  
年約646万トン\*  
\*出典：農林水産省



国連 WFP の支援量  
年約380万トン

世界に食料は足りているが、  
全員に平等に行き渡っていない



# 国連WFPとSDGs



2 飢餓をゼロに



国連 WFP の支援は、“飢餓ゼロ”だけでなく、教育機会の拡大やジェンダー平等の推進、ひいては貧困の撲滅など多くの効果をもたらし、SDGs 全体の目標達成に大きく貢献します。



## 緊急食料支援

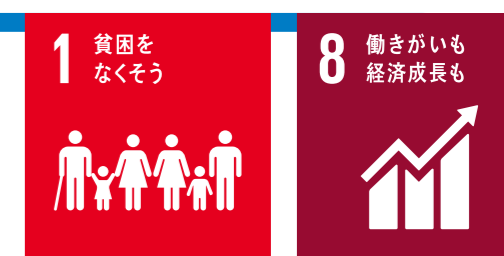


2017年8月にミャンマーで勃発した武力衝突では、1カ月で40万人ものロヒンギャ難民がバングラデシュに逃れました。国連WFPは何日も食べずに到着する人々に対し、まずは栄養強化ビスケットを配布、その後食料の配給も実施しました。



3人の子を持つファテマさん(写真左から2人目)はバングラデシュに到着して2日後に、米、豆、植物油を受け取ることができました。国連WFPは、緊急時に最も被害を受ける人々を中心に、誰一人取り残さない支援を目指しています。

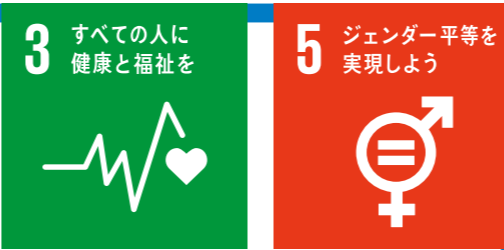
## 自立支援



ヨルダンでは、人口の10%が何らかの形で国連WFPの支援を受けています。職業訓練もその一つで、参加者には食料購入のための現金が支給されます。アマイラさん(30歳)は、伝統陶芸品の制作を学ぶ訓練に参加。デザインや塗装を学び、プロになることができました。「おかげで家族の食費をまかなうことができようになり、毎日楽しんで食事をしています」とアマイラさん。このように、国連WFPの支援は人々が働きがいを持って仕事をすることを後押しするとともに、経済的自立を促しています。



## 母子栄養支援



チャドでは2歳未満の子どもの栄養不良を防ぐため、2012年から母子栄養支援を行っています。マハマトさん(16歳)と息子のブラヒムちゃん(7カ月)も支援対象者で、健診を受けた後、栄養強化食品を受け取りました。



支援の一環として、栄養に関する知識や、地域で採れる食料の活用法などについての研修も行っています。これらの活動は、妊産婦や乳幼児の死亡率を減らすとともに、健康に生きるための基盤づくりに貢献します。

## 学校給食支援



男女格差が深刻な一部の地域では、給食に加え、家に持ち帰ることができる「持ち帰り食料」を配給しています。ガーナ北部では、1カ月の出席率が8割以上の女子生徒に、豆、植物油、塩などを配っています。



これにより学校に留まる女子の割合が2倍増の99%になり、成績も伸びました。女子への教育の普及は、知識の向上やより多くの選択肢の獲得を促し、早すぎる結婚や妊娠、人身売買などの回避・撲滅にも寄与します。

## 輸送・通信支援



2015年にネパールで発生した大地震の際は、ネパール政府、地方自治体、NGO、他の国連機関やドナーなどと連携し支援活動を実施するとともに、160以上の団体の支援物資の輸送をサポート。アクセスが困難な山間部の村に物資を運ぶためヘリコプターを活用し、食料800トン以上に加え、他団体の支援物資1,800トン近くを空輸しました。また、インターネットなどの情報通信網を整備し、他団体にも提供しました。



※国連WFPの支援は、この他にも様々なSDGs目標の達成に寄与しています。





World Food Programme

飢餓から救う。未来を救う。



緊急食料支援

# 命を救う。

紛争や災害が発生すると、現地政府からの支援要請に基づき、直ちに職員を派遣します。48時間以内に最初の食料を被災地に届けることを目指し、その後、迅速に支援を拡大。指定の店で食料と引き換えられる券や、食料購入用の現金、電子マネーを配布することもあります。

包囲によりライフラインが寸断された東グータに、1 カ月分の食料を積んだ国連 WFP の支援が到着。(シリア)

©WFP/Welmoed Kortewek



暴力行為に加え干ばつが追い打ちをかけ、飢餓が広がるナイジェリア北東部。豆、米などの支援食料を配給所から各家庭に運ぶため、車に積み込む。

©WFP/Amadou Baraze



長期化する紛争により飢餓に陥るカサイ地域において、国連 WFP の支援食料の一つである植物油を分け合う女性たち。(コンゴ民主共和国)

©WFP/Griff Tapper



# 一生に関わる 「最初の1,000日」

子どもは母体に宿ってから2歳に達するまでの「最初の1,000日」に十分な栄養を摂れないと、心身の発達に回復不能なダメージを受ける恐れがあります。国連WFPは乳幼児と妊産婦へ栄養を強化した食品を配り、子どもたちの健やかな成長を支えます。



国連WFPが導入した、乳幼児のための栄養を強化した持ち帰り用の食料支援は、政府に移管され規模も拡大。(インド)

©WFP/Rafi P



保健センターで、低体重の妊産婦と5歳未満の栄養不良の乳幼児への栄養支援を実施。身長・体重の測定や栄養指導も行う。(ブルンジ)

©WFP/Hugh Rutherford



国連WFPが保健省との連携で製造したペースト状の栄養強化食品を息子に食べさせる母親。(東ティモール)

©WFP/Cesaltino Ximenes



学校給食支援

# 給食で 広がる未来。

学校給食は貧しい子どもたちの栄養状態を改善し、勉強への集中力を高めます。給食があることで親が子どもを学校へ通わせるようになり、就学率が向上します。教育の普及は国の発展につながります。



World Food Programme

飢餓から救う。未来を救う。



紛争の影響を受けたミンダナオの学校で、毎年 6 万人以上の子どもたちに栄養のある温かい給食を提供。給食は子どもの親や教師が準備。(フィリピン)

©WFP/Anthony Chase Lim



給食のおかげで勉学に励むこともできる。食材は現地の農家から調達することで、地元経済の活性化にもつながる。(ラオス)

©WFP/Rein Skullerud



ナイロビにあるスラム街の学校では、現地で調達した食材で作られた温かい給食を約 8 万人の生徒に提供。かつての生徒(写真右)もボランティアで配膳に参加。(ケニア)

©WFP/Martin Karimi





World Food Programme

飢餓から救う。未来を救う。



自立支援

# 支援からの卒業を目指して

支援を必要としている人々に、農地や灌がいの整備、職業訓練などに取り組んでもらい、対価として食料を提供します。地域の生活環境が改善するだけでなく、人々のスキルを高め、自立を助ける効果も期待できます。

長年に渡る森林伐採により引き起こされる洪水被害に悩まされていた住民たち。火山岩を使って水流を弱め、土壌の流出を防ぐ方法を学び実践。(セネガル)

©WFP/Jenny Matthews



国連 WFP が支援する裁縫の職業訓練を受ける国内避難民の女性。干ばつによる不作や食料価格の高騰などにより多くの貧困層が食糧不足に直面した。(ソマリア)

©WFP/Karel Prinsloo



国連 WFP の支援をもとに灌がい設備を整え農作物の収穫が増えたおかげで、出稼ぎに行かずに済み、家族と一緒に暮らせるように。(ホンジュラス)

©JAWFP



飢餓から救う。未来を救う。



## 輸送・通信支援

# 確かに、届ける。繋ぐ。

国連 WFP は国連随一の輸送集団であり、飛行機 92 機、船 20 隻、トラック 5,000 台を稼働させ、食料を届けています。緊急時には「輸送のリーダー」として、アクセスの難しい地域に他の人道支援団体の物資やスタッフも運んでいます。さらに通信関連の設備や専門家を派遣し、通信網の整備も行っています。

紛争や劣悪な道路事情のため陸路で支援を届けられず、栄養強化された植物油を飛行機から空中投下。パラシュートは落下時の事故や破損を回避するため。(南スーダン)

©WFP/George Fominyen



長年にわたり武力衝突が続き人道支援が制限されるスーダン西部で、支援物資を届ける国連 WFP のトラック。(スーダン)

©WFP/Ala Kheir



2015 年に発生したマグニチュード 7.9 の地震の際に設置した緊急通信サービスには、支援団体 250 以上が使用登録をし、救命活動に利用。(ネパール)

©WFP/Mariko Hall